



下山静香さん

しもやま・しずか ピアニスト、ライター、スペイン音楽研究家。桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。1999年度文化庁派遣芸術家在外研修員（スペイン）。現在は東京を拠点に国内外で演奏活動を行なうほか、執筆、翻訳にも取り組む。リリースCD『モンポウ前奏曲集&ブランク夜想曲集』（2012年）ほか。訳書『サンティアゴ巡礼の歴史』（共訳、原書房）ほか。著書『現代イギリス読本』（共著、丸善）ほか。

BOOKS

本書は、かつてカステイリヤ地方と呼ばれたスペイン中央部の三州（カステイリヤ・イ・レオン州、マドリッド州、カステイリヤ・ラ・マンチャ州）の魅力、歴史、文化、芸術、思想の面から掘り下げて紹介する書である。四十四人の筆者が各章の執筆にあたった濃密な一冊だ。本書の編著を、法政大学名誉教授の川成洋さんとともに担当した下山静香さんに話を聞いた。

——本書の読みどころを聞かせてください。

スペインは、しばしばヨーロッパの縮図といった言葉で、その民族や歴史、文化の多様性と複雑さが表現されます。この本は、「エリアダステイズ」の一冊として刊行されましたが、こちらのシリーズでスペインを扱うものは、今回で七冊目になります。

シリーズのそれぞれの書から、スペイン文化の特色と奥深さを読



『マドリッドとカステイリヤを知るための60章』  
明石書店 2,000円

み取ることができそうですが、今回のマドリッド・カステイリヤ編でも、読者のさまざまな関心から、スペインの魅力を探ってもらえる一冊になったのではないかと思います。

カステイリヤは、スペインらしさが封印された土地だと言うことができます。飛行機でマドリッドに降り立ったことがある方は、眼下の赤茶けた大地の眺めを思い出されるかもしれません。まるで

BOOKS

ドン・キホーテの世界のようなその眺めは、スペインの代表的な風景であると同時に、「多様なスペイン」が見せる顔の一つでもあります。

「不毛な荒野」として語られることが多いカステイリヤですが、実際は、自然・風土の面でも、山あり谷あり、そして水ありという、複雑で多様な表情を持ち合わせています。この複雑さと多様さは、文化、風習などさまざまなものに見いだせます。

——本書では、歴史、文化、芸術、思想を紹介する各章に加えて、「都市の万華鏡」と題して、マドリッドのほか、トレドやバリャドリード、サラマンカといった都市の魅力掘り下げていくトピックも充実しています。

各テーマへの執筆への依頼に

あたっては、今回私に声をかけてくださった川成先生と相談しながら、アカデミックな研究者のほか、音楽家や芸術家、料理研究家といった方々にも声をかけていきました。

カトリック神秘主義や、カバラ（ユダヤ神秘思想）といったものは一般には馴染みがないかもしれませんが、スペインの芸術文化の理解には欠かせないものです。スペイン人の気質の一面を特徴づける「カステイシスモ」（生粋主義）の紹介なども、私のこだわりどころでしょうか。

——下山さんは、スペイン留学が音楽家としての大きな転機だったと伺っています。現在では、ライフワークとして、日本ではなかなか聴く機会が少ないスペインやラテンアメリカの作曲家の作品の紹

介に取り組まれています。

音楽にも人と同じように、感情がダイレクトに現れているのがスペイン音楽の魅力でしょうか。ただ、ここで言葉に気をつけなくてはいけないのは、人の感情とその表現には、さまざまなアプローチがあるということです。

このダイレクトということを言い換えると、「心に扉がない」といったイメージでしょうか。

そして、厳しい自然と向き合ってきた人々と同様に、音楽の中にも、厳しさと、誇り高さが備わっている点も魅力です。

自然の厳しさの前で、ただ萎縮しているのではなく、毅然と受け止めて立つ——。私が「真の強さとは何か」と思うときに浮かんでくるのは、そのようなスペインの人々の精神です。